

一般財団法人 神奈川県高等学校教育会館 主催

2024年度 教職員のための夏季教育講座

募集案内 ハイブリッド開催

参加無料 市民に開かれた講座です

講座 A

7月31日（水）14:00～ 高校教育はどうあるべきか～生徒の現実と向き合う学校改革

将来に希望を見出しにくい社会にあって、その変革の鍵を握る重要な機関であるにもかかわらず、高校の階層構造は拡大・深化しています。時代状況に対峙し、生徒の現実をしっかりと見据え、持続可能な学校改革を試み続けてきた大阪の2つの府立高校は、困難さと向き合いながら学びを再構築し、当事者間のつながりをつむいできました。教員不足、学校の働き方改革など、今日の学校の状況にどう向き合っていくべきか、具体的な学校改革の実践例から高校教育のあり方を考えます。

講師 菊地栄治さん 早稲田大学 教育学部教授

講座 B

8月1日（木）14:00～ 教育評価の基本的問題～教育評価はどうあるべきか

新指導要録で各教科における評価の観点が「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の三つに統一されることで、新たな課題が高校教育の場に浮上しています。ここであらためて観点別評価とはどういう背景のもとに押し出されてきたものなのかを一緒に考えてみましょう。「観点」と「目標」とは何が異なるのか。観点別評価は学力づくりに結びつくのか。そもそも学力を評価するとはどういう教育的営みなのか。教育評価をめぐる基本的な問いに立ち返りつつ、各教科で役立つ評価づくりのヒントを探ります。

講師 大津悦夫さん 教育心理学者 立正大学名誉教授・元副学長

講座 C

8月2日（金）14:00～ 高校教育のゆくえ～学習指導要領の改訂にむけて

22年度入学生から、指導要録に観点別学習状況の欄を新たに設け、評価を記載することになりました。しかし、観点別学習状況の評価を大学入学者選抜で直ちに活用することには慎重な対応が求められています。そして、教育課程検討会の論点整理を経て次期指導要領の改訂諮問が見込まれるなど高校教育、さらには高大接続の在り方も大きく問われる時期となりました。こうした状況の中、学習評価に対する基本的な考え方を踏まえ、あらためて高校教育について考えてみたいと思います。

講師 渡辺敦司さん 教育ジャーナリスト 元日本教育新聞記者

2024年度 教職員のための夏季教育講座 申込方法

メールによってお申込みを受け付けいたします

宛先はab129@green.ocn.ne.jpまたは右のQRコードを読み取ってください。

(アンドロイドは読み取れない場合があります)

件名は「2024夏季教育講座申し込み」として、以下の事項を明記してください。

- ①氏名 ②学校名（一般の方は住所） ③講座名（講座A・講座B・講座C）
④受講形態（対面・オンライン）



お申し込み期間 6月10日（月） ～ 7月26日（金）

◎対面参加の方

申込順に受講者を決定します。満席になった場合や感染症の拡大等で対面開催が困難になった場合はオンライン参加の連絡を差上げます。連絡がない場合は、会場にお越しください。

◎オンライン参加の方

受講する講座のZOOMのID・パスコードを、お送りいただいたメールアドレスに返信いたします。

◆教職員は、対面・オンライン参加でも「職専免」で参加できる予定です。

期間 7月31日（木）～8月2日（金）

時間 14:00 ～ 16:30

会場 神奈川県高等学校教育会館
横浜市西区藤棚町2-197

電話 045-231-1180
担当 馬鳥

